

イギリス・南欧における都市計画と水辺事情

研究第二部 主任研究員 北村 正孝

1. はじめに

本報告書は平成2年9月21日から10月6日までの日程で欧州の諸都市を視察調査したなかから、イギリスのロンドン・エジンバラ・グラスゴー及びスペインのバルセロナにおける都市計画と水辺事情についてまとめたものである。

視察日程及び訪問先

視察日程表

日次	月日曜	発着地／滞在地	発着 現地時間	交通 機関名	摘 要
1	9月21日 (金)	成 田 発 ロンドン 着	13:30 17:55	BA-008	直行便にてロンドンへ 日付変更線 到着後ホテルへ (ロンドン泊)
2	9月22日 (土)	ロンドン		専 用 バ ス	午前：業務視察 ○ウォーターフロント再開発 (ロンドン・ドックランズ) 午後：ロンドン市内視察 (シティの封筒型再開発 ・パービカンセンター) (ロンドン泊)
3	9月22日 (土)	ロンドン 発 ダブリン 着	16:55 18:05	BA-824	午前：ロンドン市内自由視察 アイルランドの首都ダブリンへ 到着後ホテルへ (ダブリン泊)
4	9月24日 (日)	ダブリン			ダブリン市内都市関連施設訪問 (ダブリン泊)
5	9月25日 (火)	ダブリン			業務視察 ○ウォーターフロント再開発 (ウォーターフロント・ファイナ ンスシティ) (ダブリン泊)
6	9月26日 (水)	ダブリン 発 エジンバラ 発	11:00 12:00	EI-254 専 用 バ ス	中世の佇まいを残すエジンバラへ 午後：エジンバラ市内都市関連施設 訪問 (エジンバラ泊)
7	9月27日 (木)	エジンバラ		専 用 バ ス	◎Scottish Development Agency (スコットランド開発庁) 訪問 グラスゴー東部地域復興プロジェクトについて (エジンバラ泊)

日次	月日曜	発着地／滞在地	発着 現地時間	交通 機関名	摘 要
8	9月28日 (金)	エジンバラ 発 ロンドン 発 ロンドン 発 バルセロナ 発	9:00 10:15 12:15 15:10	BA-4733 IB-619	ロンドン経由バルセロナへ 到着後ホテルへ (バルセロナ泊)
9	9月29日 (土)	バルセロナ		専用 バス	終日：業務視察 ○オリンピック関連施設専門視察、 並びにアントニオ・ガウディの建 築群視察 (バルセロナ泊)
10	9月30日 (日)	バルセロナ 発 ミュンヘン 着 ミュンヘン 発 西ベルリン 着	10:50 12:40 18:35 20:00	IB-546 PA-692	ミュンヘン経由、解放後の西ベル リンへ ミュンヘン着後、アウトバーン視察 到着後ホテルへ (西ベルリン泊)
11	10月1日 (月)	西ベルリン		専用 バス	ベルリンの壁、解放後の激動の東西 ベルリン事情視察 (西ベルリン泊)
12	10月2日 (火)	西ベルリン 発 フランクフルト 着 フランクフルト 着 パ リ 着	14:40 15:45 16:50 18:00	EE-5108 LH-1774	伝統と革新の調和のとれた都市パリ へ 到着後パリへ (パリ泊)
13	10月3日 (水)	パ リ		専用 バス	終日：業務視察 グランプロジェ進行状況視察 ◎グランド・アルシュ、駅舎を改造 したオルセー美術館、アラブ世界 研究所、ルーブル美術館、新大蔵 省、新オペラ座など (パリ泊)
14	10月4日 (木)	パ リ		専用 バス	終日：業務視察 中央市場の再開発(レ・アル 地区) ○ショッピングセンター視察 ○グランプロジェ専門視察 屠殺場の再開発のピレット地区訪問 (科学産業都市、音楽都市) (パリ泊)
15	10月5日 (金)	パ リ 発 ロンドン 発 ロンドン 発	11:20 12:30 15:30	BA-307 BA-007	ロンドン経由、成田へ (機中泊)
16	10月6日 (土)	成 田 着	11:20		到着通関後、解散



2. イギリス、ロンドン

ロンドンの再開発で特に注目されているドックランドは、テムズ河沿いのロンドン港再開発地区で、世界的にも最大級の再開発である。

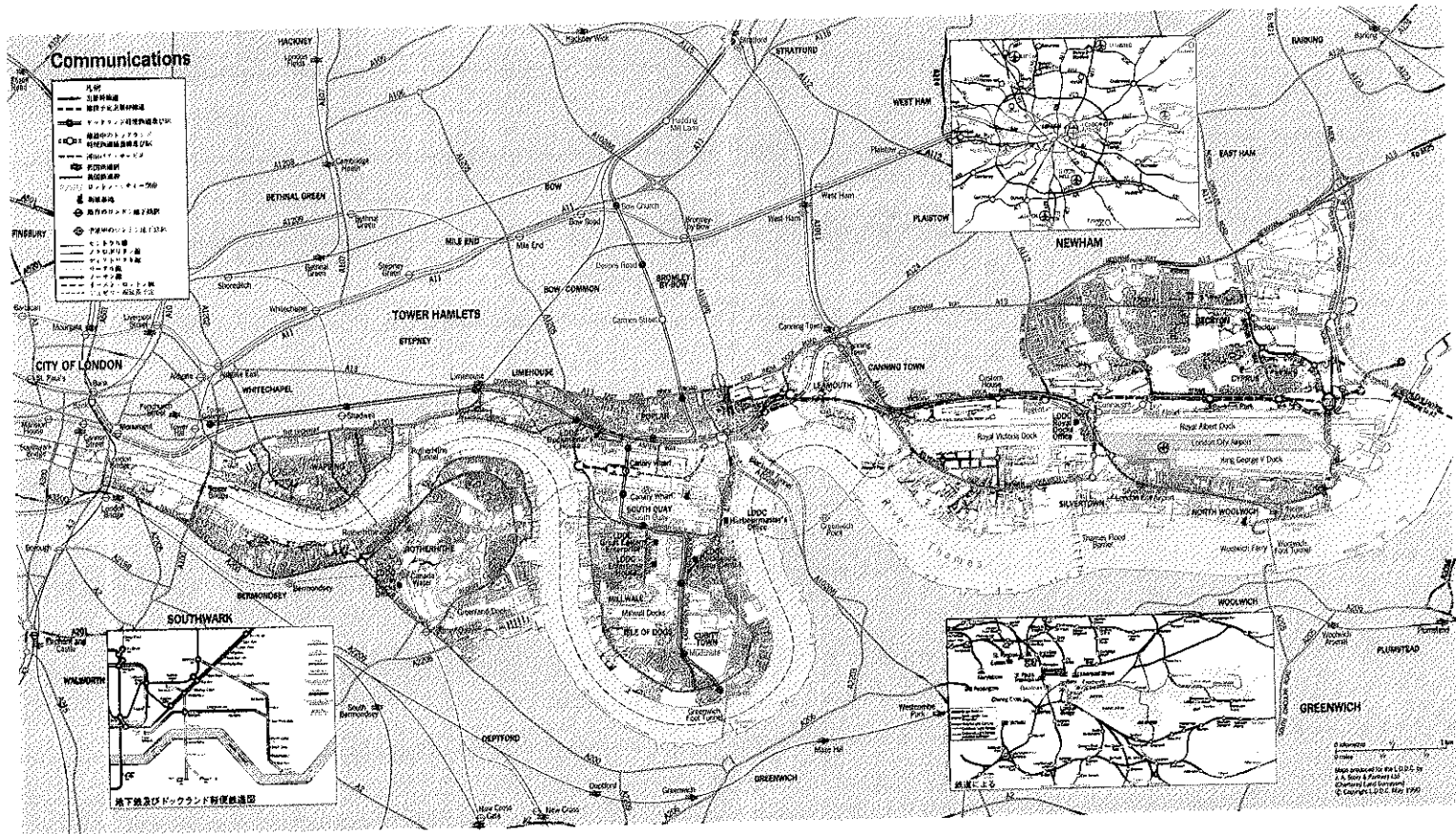
何世紀もの間、世界を相手に繁栄したロンドン港は、その関連施設とともに今では全くさびれ、廃虚と化していたものを大規模な再開発の手法によって近代化したロンドン第二の「シティ」として生まれ変わろうとしている。

市の中心からわずか数キロという地の利に恵まれ、また約22平方キロという広大な面積を擁したこのドックランドは、飽和状態にあるロンドン市を救うものとして期待され、ロンドン・ドックランド開発公社がその中心となって1980年代初期から建設が進められてきたものである。この急速に復興を遂げた地域は、下部構造組織への公共投資のみならず、その優れた環境およびコミュニティを創出できる質の高い事務所や工業、商業用地、住宅、レジャー施設の投資に多くの国際民間企業誘致を果たしてきた。1989年3月までの投資額は、公共で5億4700万ポンド以上、民間で68億ポンド以上となっている。

ロンドン・ドックランドの主な利点

- ・ヨーロッパ最大の首都および金融市場の中心地
- ・利便性の高い交通網
- ・最先端の通信網
- ・比類ない経済性：一等地事務所でも1平方メートル215ポンドから入手可能である。これはシティ金融街の事務所のコストの三分の一である。
- ・企業ゾーンにおける税制上の優遇措置がある。

この大規模な再開発は、東京のウォーターフロントと類似しているところが多く、晴海や豊洲地区を中心とする再開発や東京湾埋立地区の開発にも大いに参考となっているところである。



3. イギリス、エジンバラ

スコットランドの首都エジンバラは北緯56°に位置し、人口約45万人を有する都市であり、エジンバラ域を中心に中世の歴史の重みを残すオールドタウンと、18世紀より都市計画に基づいてつくられたニュータウンをもつ美しい街である。

エジンバラでは数百万年前の火山とその後の氷河活動により多数の谷ができ、オールドタウンが今日位置している高い峰を形成した。そして、その険しい丘の上に城が建てられ、北のフォース湾や東方からせまるローマン、サクソン、イングランド軍に対する要塞の役目を果たした。

15世紀に正式にスコットランドの首都となり、スコットランド王国の議会がここにおかれ、イングランド王国に対して大きな影響力を持っていたが、1707年に両王国の合同法が発効し、スコットランド議会は廃止された。これによりスコットランドはイングランドに併合され、イギリスは統一された。しかし、独自の文化と歴史を持つエジンバラ人は、今でも自分たちをイギリス人とはいわずスコットランド人と呼ぶように、こよなく祖国を愛する誇り高き人々である。

[オールドタウン]

オールドタウンは石造りの古びた高い建物が所狭しと建ちならび、クロウスと呼ばれる迷路のような狭い道がたくさんあり、中世の雰囲気のがこっているところである。

丘の上に荘厳にそびえるエジンバラ域からゆるやかな石畳の坂を約1.5km下ったところに優雅なホリールード宮殿が位置する。エジンバラ域とホリールード宮殿を結んでいるこの中世のメインストリートはCastle Hill, Lawn Market, High Street, Cannon Gateから成り、通称ロイヤルマイルと呼ばれるものである。

エジンバラ域は7世紀に昔の要塞あとに城を築いたのが始まりで、その後1300年にわたってその頑丈な姿を守り続けている。

ホリールード宮殿は優雅な形をした宮殿であり、現在もエリザベス女王が

スコットランド滞在時の公式宮殿である。そして背後一帯に広がるのがもともと王室の狩猟地であったホーリールードパークで、火山活動でできた山やロッホと呼ばれるいくつかの湖を有する変化に富んだ大自然を残す公園になっている。ホーリールードパークは約2.63km²の広さを持ち、ロッホの湖辺部には葦のバードサンクチュアリーなどが見られる。

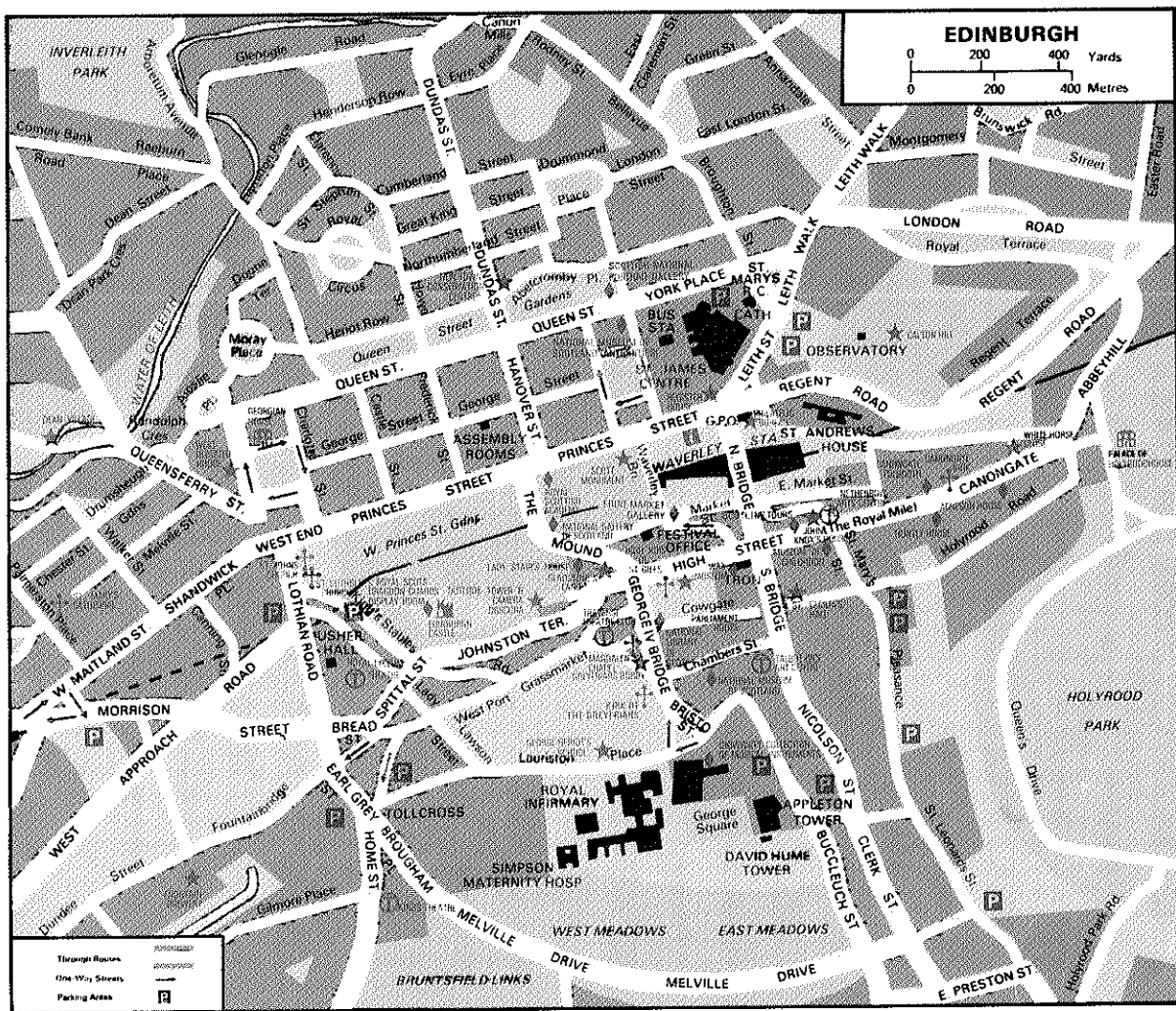
[ニュータウン]

18世紀半ばオールドタウンが過密状態となり、悪臭が漂い、非衛生的になったため、ニュータウンの建設が必要になってきた。この1767年から始まったエジンバラのニュータウンの建設は、綿密な設計、価値ある建築物の建造といった点で市の歴史における重要な位置づけをなすものである。

建築コンペにより採用された若い建築家ジェイムズ・クレイグの都市計画は単純な格子状のデザインであった。主要な通りとしてジョージストリート（George Street）がなだらかな峰の公園にそって東から西へ通っている。この通りに平行して北側にクイーンストリート（Queen Street）、南側にプリンセスストリート（Princes Street）が配置されている。ジョージストリートの両端には現在のセントアンドリュース広場とシャーロット広場が配置されている。ニュータウンは18世紀には都市計画において先導的な役割を果たしたと共に、20世紀の今日までジョージア様式の価値ある建築物を多く残している。

ニュータウンの歴史において一つの重要な事項として、1970年にエジンバラニュータウン保存委員会が設立されたことがあげられる。委員会の事業は、エジンバラ市と歴史的建築物評議会による基金と政府の後援を受けて、文化的遺産である建築物を保存することである。これは建物の所有者に補助金をだしたり、外壁の修繕に専門的な指導をしたりして行われている。

また、ニュータウンは元来住宅向きの地域であることから、エジンバラ市は計画開発委員会により、住宅を商店に転換することを認めないという方針を長年にわたってとってきた。このような制度により、エジンバラの街は北ヨーロッパでも屈指の美しい街として保存されてきている。

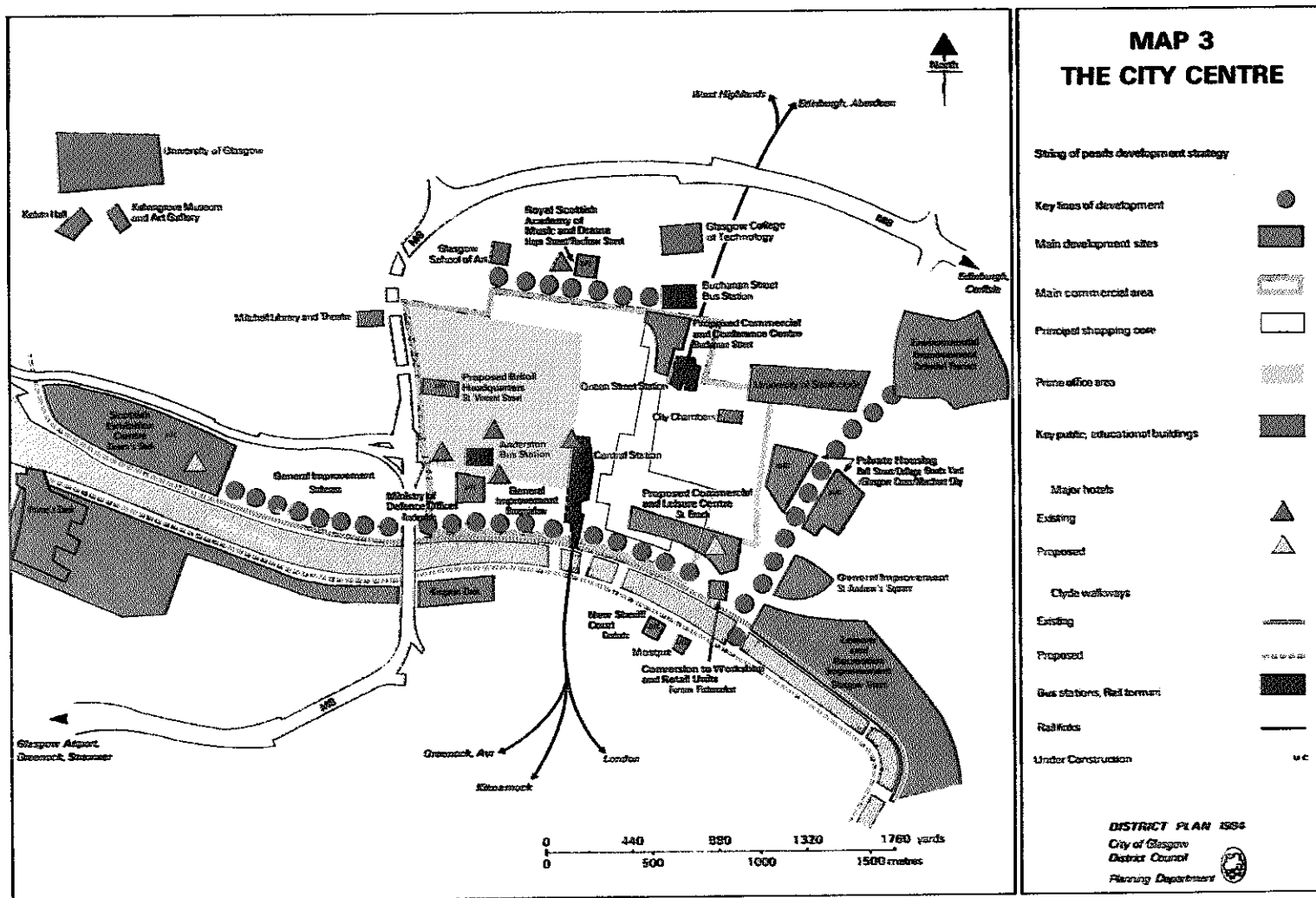


4. イギリス、グラスゴー

グラスゴーはスコットランドにおける最大の都市である。18世紀におけるアメリカとの砂糖、タバコ、綿を中心とした貿易の始まりは、この都市に大きな経済的発展と急速な人口増加をもたらした。その後、鉄鋼業、造船業等の隆盛により、1930年代には人口100万人を抱えるようになった。一時期鉄鋼の不況により人口が減少したため、サービス業を中心とした産業、観光、教育、文化等に重点を置いてその振興を図っており、現在は人口70万人を有する都市となっている。

最近、グラスゴーのイメージ・チェンジを行うため大きな努力がなされている。これを提唱しているのは、1983年に始まったグラスゴー・マイルズ・ベター・キャンペーン（Glasgow Miles Better Campaign）であり、都市内生活の復活、新たなショッピング地域、ホテル、オフィスの開発、そして1988年のグラスゴー・ガーデン・フェスティバルが挙げられる。またこの街は、アテネ（1985）、フィレンツェ（1986）、アムステルダム（1987）、ベルリン（1988）、パリ（1989）、に続いて「1990年ヨーロッパの文化都市」に選ばれている。

グラスゴーはまた、クライド川を中心として発展してきた街でもある。クライド川沿いの商工業地帯が衰退してきたため、ここ数年にわたってアメニティーの豊かなリバーフロントが提供されてきている。いくつかの敷地は他の目的で再開発されており、以前のクィーンズドック跡はスコットランド展示・会議センター、プリンスドック跡はガーデンフェスティバルに使用されており、また川の両岸は様々な住居開発に利用されている。グラスゴー地区審議会、ストラスクライド地方審議会、クライドポート局、スコットランド開発庁は「クライド・プロジェクト・グループ」を設立した。このグループは、特に河川環境を主眼とし、クライド川に沿った地盤や建物の有効開発を目的としている。クライド川やケルビン川沿いには遊歩道、サイクルウェイ等も整備されており、旅行者やレクリエーションにも適した水辺空間となっている。



LANDSCAPE

Areas of Major Landscape Potential

Main Motorway Corridor

Walkways / Watercourses

Areas Suitable for Mass Planting

Existing Features

Countryside

Primary Landscape

Woodland

Urban Areas with Significant Tree Cover

Urban Parks and Other Open Space

Sites of Special Scientific Interest

Areas having Strong Links with Countryside Outwith City

Motorways / Expressway

DISTRICT PLAN 1984

City of Glasgow

District Council

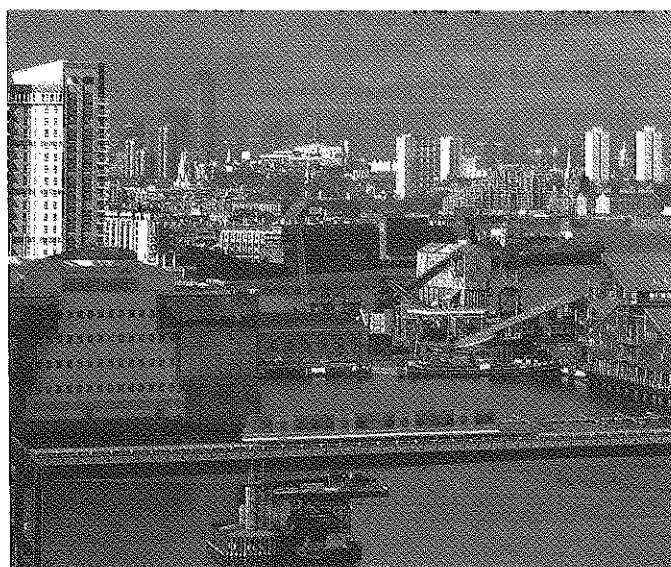


5. スペイン、バルセロナ

バルセロナはスペインの東部、カタルーニャ地方に属し、人口180万人を有するスペイン第二の都市である。カタルーニャ地方は北部はピレネー山脈を挟んでフランスに接し、東は地中海に面した沿岸部が長く続く。この地理的条件により、カタルーニャはスペインのなかで最も西欧化した地域となり得たのである。しかし、1936年から3年間にわたるスペイン市民戦争により、フランコ独裁政権が成立し、スペインは世界的な孤立状態に置かれた。その後、1975年フランコの死とともにその独裁政権が崩壊し、カタルーニャ地方は1977年、他の地方に先がけて自治権を獲得した。

1992年はオリンピック開催の年であると共にコロンブスの新大陸発見500年祭の年でもあり、世界的なイベントを前にして、バルセロナは大きく変わりつつある。オリンピックの中心会場となるのは海岸近く市の南西部に広がるモンジュイックの丘である。この丘は1929年に万国博が開かれた場所であり、メインスタジアムは既にこの時に作られたものである。既存のスタジアムは古い基準で500mトラックであり、スタンドも浅く、3万人収容のものであった。それを輪郭はそのまま残し、内側の地面を11m掘り下げて、現在の基準である400mトラックにせばめ、観客席を6万5千人収容のものへと改築したものである。メインスタジアムの隣に建築されている屋内競技場のサン・ジョルディ・スポーツパレスは、日本の建築家磯崎新氏設計のものである。このモンジュイックの丘の上にあるオリンピック関係施設は、世界的に評価のある著名建築家による国際設計コンペティションにより設計者を決定しており、磯崎氏がサン・ジョルディ・スポーツパレスを担当することになったものである。

バルセロナ全体を再開発しようとする計画があり、市内に数十箇所ある公園では、地元の建築家による手直しが行われている。イスパニャ・インドゥステリアル公園は以前工場であった敷地に建設されたものであり、一種の野外劇場といったものであり、水・植物・芸術品をふんだんに使った広々としたホールを有している。また、海側の古い町では沿岸部を改修して快適な歩行空間を作り出している。



写真－ 1



写真－ 2

写真－1,2 ドックランド（ロンドン）



写真－ 3



写真－ 4

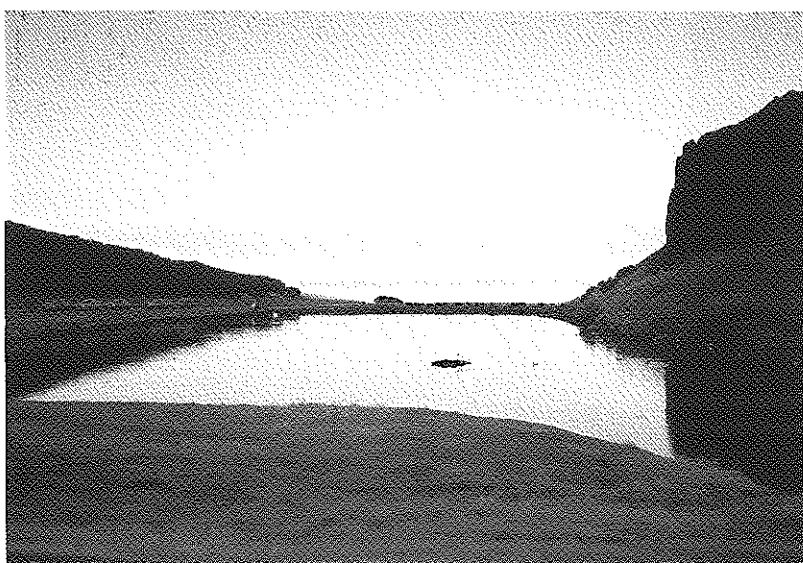
写真－3,4 ドックランド（ロンドン）



写真－５ オールドタウンのロイヤルマイル
(エジンバラ)



写真－６ ホリールードパーク
(エジンバラ)



写真－ 7



写真－ 8

写真－7,8 ホリールードパークのロッホ（エジンバラ）



写真-9 ニュータウンのクィーンズストリート
(エジンバラ)



写真-10 ニュータウンのジョージズストリート
(エジンバラ)



写真-11 ニュータウンのプリンセスストリート
(エジンバラ)



写真-12 クライド川
(グラスゴー)

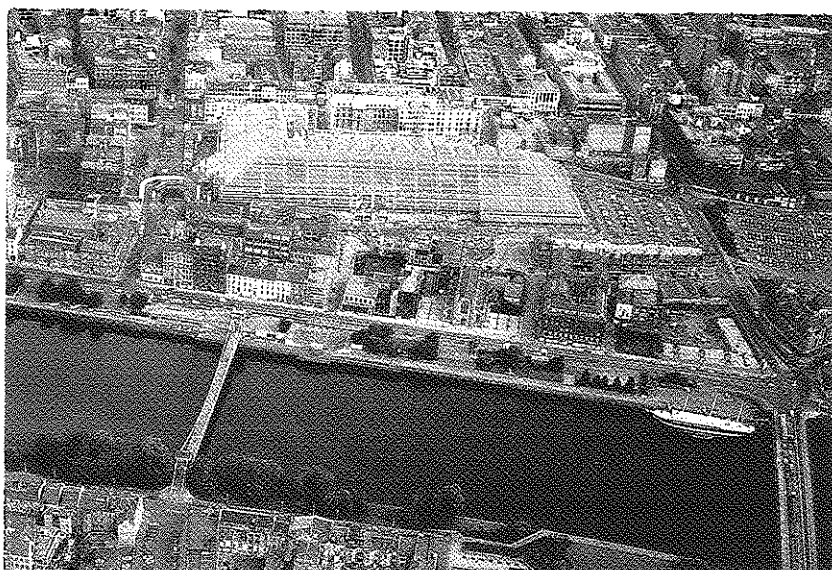


写真-13 クライド川
(グラスゴー)



写真-14 倉庫を改造した川沿いの住宅
(グラスゴー)



写真-15



写真-16

写真-15,16 オリンピックのメインスタジアム
(バルセロナ)

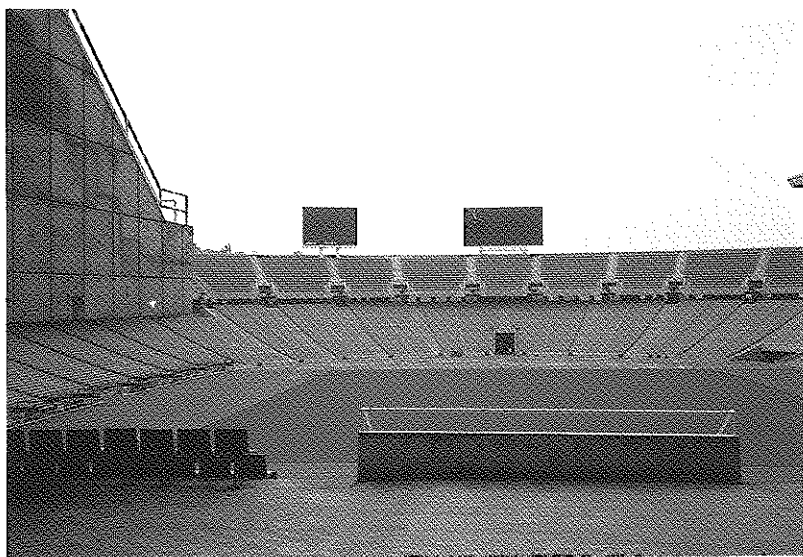


写真-17 オリンピックのメインスタジアム
(バルセロナ)



写真-18 磯崎新氏設計のオリンピック室内競技場
(バルセロナ)



写真-19 モンジュイックの丘からバルセロナ港を望む
(バルセロナ)



写真-20 イスパニャ・インドゥステリアル公園
(バルセロナ)



写真-21 イスパニア・インドゥステリアル公園
(バルセロナ)